

東海家志

番外書冊

			一	和書門
		二	八	
		三	七	
	二	二	五	
	架	函	六	
五	冊	架	號	類

漫筆雜考

				內閣文庫
		八	七	和書
		五	五	
二	二	一	七	
冊	架	冊	架	

(四)

內閣文庫	
番號	和 18756
冊數	5 (4)
函號	211 255

漫筆雜考



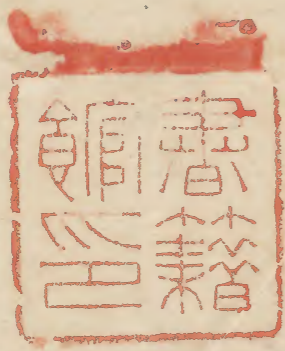
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



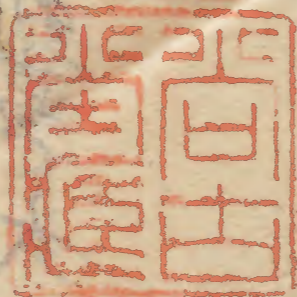
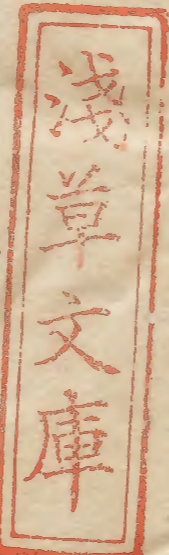
© Kodak, 2007 TM: Kodak





但煉先生南留別志卷之四

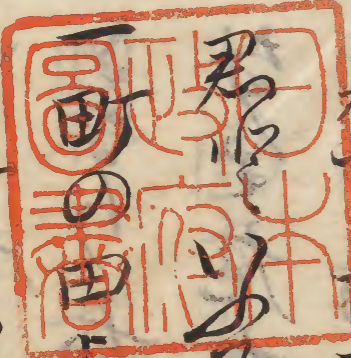
門人 南總 宇惠 校訂



一 清曹目、曾子の誤りなること、

かつりてあやまるなりと一 曹目

君作、以の者なるを



一 田の書、ある米二十石なるは角
正税三石一斗なるを、位田職田の税と

いさす二十とるをんたのから細
るなり太政大臣の職田四十町子
ちる大太の大臣え三十町七百
十る大納言二十町五百るなり太
宰相十町二百る大貳の町百
五十る少貳の町百る大監の監大
判り二町六十る大工の判事大

典防人正主神侍士一町六段四
が典陰陽師醫師少工宰相主形
主厨防人佐一町四段二千五
二町二千七石史生六段十
大國者二町六段六十上國者大
國介二町二段五十石中國者上國
介二町五十石下國者大上國者二町

徳方の定とある一延喜式にの
せらる侍所のおととんらに恭儉のつ
ねる異國ふと何らまきなるを賢
悪代よりふとなん代を制法の
力少く仁儉の徳とより一なりす
古法をよくせらねるふてねとやに
れさまねるなるを

一ふにの棘羸ち定うにまら訓は

海丹よりふなる一

國ふ日野より地名何赤子烽

と牽るる不なると後子火のつ子志

てかき習た家なると一火の團と

肥子改める類なると一

一清成殿式目の第一條子神社

第二條より佛子の事をいふ令
子友位令職負令の次子神祇と
僧尼を出せ候事本法もなる

下

一 ひとこみ経をかきひらめり日と
来きるに本家より何らさるなり
めさえしらなからひらめいひ

て子そのまゝ男と女とをきき
まへなるかえ来はまふれなり

かゝる下

一 押領使よりあつとを候りし押領
使り少御となりて其地を勅賜
ならてたして領せるかなるを解
するに候事なりさうい何き候の

字を乃けるる奥羽軍記のわみあひ
 陣頭を何れと後冬に押領使と何
 字國とよりと後冬に出る軍兵と
 在つぬて出る頭のもなり押の字
 のまにかくえるもなり
 一みりといふあとの將也る詞なる下
 一庄よりおと郡のやうに思ふ

を得るなるも庄の庄園もて新田に
 何れ一と田はあはま一と新田の
 内にも都子庄とあるなる友の人
 又、す社の封戸なるも一とを
 司ふ代友の様なるものを庄目とふ
 なるもされえ庄の名もた地も何
 一と何の國何の郡何の庄何村と

かなしすいしきふいあやまりなる一
國郡郷之次第するり本法あり
郷の名は和名類聚より出たり

一 潮下より初田郷田など持てる
人の罷り何いて知らひて其田の
ぬちなくなりしをとりふたを朝
國より其國々の解任して其國の

何きしるをいふなり

一 國目、國をさるをさ護といふも出
來るる後、公家より置るる友人
をいひしるなり國を、多く、京都
より何りたのむらかきく、其不務を
るまて、あて國務よかまえぬるにたを
しるる國を、國目と名こくわたり

一 かつら丸見奉り七古玉をたふら
 ちるよ後の甚まはきくくやう
 やうなり大かこいさるをこら
 とやちよんまむおのつらけを
 されくむなるを
 一 古よ公田と耕す民を良家とす
 是則武士なり正税と一町の田を

一 一斗の斗りておよ徳役とつ
 む新田と耕すものぬ婢なり耕
 す田の米はあらむる人のもの
 一 なる木の斗は口分田のいおを
 是よん税といさぬちよん良か
 のはち田の二飯はなり現米ふ
 是よん税一斗一升出よなりぬ婢の

口分田は其の三分一なり現米一石六
七斗なりこの百姓はけぬ牌の類
なり

一との世に六位以下と云友位のやう
に思つぬるいとのむり一五位以上
は大つり位田ありて六位以下は
ちり後り國介なく世友になり

これハ其職田も世禄よりいぬる
ハ京都よりきて介して國務と取
行ふるは國御より之の雑用の料は
定めらる郡稻なり介の人供はな
まぬこれより以下掾目郡司等も皆
世友よりいぬるは職田ハ其世禄と
ちりぬかふ人の目よりいぬるハ京

友の六位に中まゝかぬおなほ子
松のねと位階にまゝのかえりて富
松もろもきれ松めつうら友位の
やうに思ひぬるにたりたるなる
一六歌仙といふもの古との序より
人を出せるよりつりふよとてか
さきとて三十六人よりてあぢのあゑ

りて祭りて子孫を國造といひ
て其神の祭をも日と又國の政務
をも日とせり其及百友とてさ
りて時ある國をさつふとの出来
て國造は國の政務をたかまひん
ぎを祭るをかりと日ふゆ祭をせ
たりなり國造とえらひし郡司

みするもりもふもさるに國遠より
郡司よなると規模を志しりるも
一さるかかすちのあらたなり

一との畜えのやうなるものおも
孝により友よ職する友長上友
りさる者職する友つゝあとの世に
役人といふやうなるものなるも

りぬも司家役も皆教位の人長
上友なる長く上するもいふも
なりしするといふは書とするも
才は長上といふは養育のりこそ
つゝあつて役家なくして書とする
ゆゑにいふなり

一君臣のりともはたといふ郡縣の





代の名なり郡縣の代子ハを子より
外より君にちなり

一 薩摩の防のほは防人のやまり一 西な
る下

一 勲位なりあるは軍功よよなりて賜
りりなり十二等ありて勲一等ハ
正三位の下位之位の上より列すは等より

一 配當して勲十二等ハ位八位の下より
列す衣服ハ庶人より目下く黄袍と
きり勲位の次第ハ軍功よよとて下御田
と賜りりなり設けしをさるるといふる
一 加あや後志子はたえさるやうなり
一 餘綾郡を甲ぎの郡とよむるにあり
きの將せるなり綾とるきとよむるにあり

もうのうのかまよと朝鮮をめぐり
よむなり

一 半正と一端をいふ湯となり今も
及くは一端も正も同し子なるを
お丈夫ととりなり学生の束脩は
布一端なり

一 入唐のりやふ昔の博士のい

いふはあつるや日本をあら
る詞なり

一 封戸の三戸八縮四十束を出す米
にして二石なり大改大臣三子戸
六子石なりた大臣三子戸四子石
なり大納言八百戸子二百石なり一
戸も八百戸なり二戸も六百戸なり二百石

あり二所は百戸八百石あり二所は百一
位三百戸六百石あり一は二位二百六十
石百二十石あり三位二百戸に百石
あり一は二位百七十戸三百四十石あり
三位は百二十戸二百四十石あり
是之位百戸二百石ありは外に五戸
に夫役と阿そ傳ふなり

一古の田地の量もしくよきありてはかえり
まきよ式子のやうに肥後の國の
正税公解各四万束國分料四万十
千八百八十七束又殊名料二千束府
官公解二千五万束衛士料二万七千
七百九千七束修理府及倉料一万束
池溝料四万束救急料十二万束仔囚

料十七万三千四百二十石束合せり百
五十七万九千七百七石束あり米にちる
して七万八千九百五十五石六斗五升
なり是百石の場あてに石四斗納目
積りあれり百七十九万四千四百六十一
石餘なり上経國は百六万二千束米に
して五万三千石なりたの積り

百二十万五千六百石餘あり甲斐
國は百十三万石子三百束米にして
二万六千七百六十五石たの積りよ
して八十六万八千三百石餘ありと
の積りより大したる倍やるとたのあ
り信田職田中田助田なるもの不税の田
も有りまればむしはあつたのあり田

地多きやうなりてはたしめらるる
らん久よつものせきするあり

一 大宰府の料常陸國より二万四千束
近江國より一万束丹後國より八百束
伊豫國より二万束備前國より一万
千束越中國より一万束合て九万
七百束米にしては米子七百九千

一 石なり学生ノ料上野國一万束
陸奥國四千束出羽國二千束播磨
國一万七千束合て三万二千束米に
しては米子七百九千なり何れも現
米なりし

一 伊達家より六糶を城子貯ふる事
右陸奥國よ六儲の糶よりありし

孝一 例のともばりるなり

一 古にろ矢取まひの武士とつな
え大将のるちあまといひる
法とつらきつら思ひ
筆よまひ出さるちる

一 俸矢とて冥運の足おけよ持

行くおなまをいふ子路り徳と

結つるんちる

一 と耐くがいとよみ 詞智公 廊をく

あり本國の年貢米の内め

京都にたごひのちするを正税と

いふや國よばし置るや介掾目

等の國目ましか分取て雜用にする

と公廨より小職田を令く私用子
用はあり公廨は友府までのも
雑用子するなり是よりして私
なるらぬ下出するものと云
廨はありあり
一と神は小若やあまかきらまは
して國は神は何らさるるといふなり

一國は神は郷賢なりて神は名官
なり

一高坂彈正といふ者なる野に出状
有香坂彈正丸巻つ虎綱といつて
されん甲陽軍鑑は他人の倂代
なるものよく阿まらるるなり
一えうといふ榜示なり傍示と

かく、得なり

一 被髪と被友とかく、得なり支配
あるの事と、いふなり家らいの事
み、あらず

一 ぎょうがん、鑲嵌なり

一 とびやう、銅鉸子なり

一 ころもふ、行李なり、族ノ花おと

いふなり

一 狐をやかん、いふ射干なり、狐子似

て木りの、いふおなり

一 かん、いふ、鸚哥の唐音なり、鸚鵡

のちい、いふ、いふなり

一 目代、いふ、いふ、いふなり、いふ、いふ

らす、いふ、いふ、代なり、判友、代の、いふ、いふ

一 願参りしつと何らかの糸のつ子
用るに備するなりまいら人の教の
内子いるらなり延喜式なりと
ア
一 一番いしとかりなりいしつと
よむる子に舞楽相撲よりつる遠
るなり

一 ち海地よりか庭ぬらぬ地とらふと
得て庭のよりよるなり
一 神とらふに昔いしもの神の子孫と
神とらふに昔いしもの神の子孫と
一 淡路よりいふとらふ海新のつ
なり
一 ちいふとらふ御徳の物といまふ人

の死しつりといふ事さういふより
起まるなる一

一猶子とむひのさうなると借すな
とたまる人のさ郷の子さふやまどい
いふかかふ様をねも本又子遠
一

一折角といふは郭林宗のゆのる

よあひて角のひーけいなるよ人の
まひてささふゆの角と折さる
よを何さゆしとさくさすさささ
いさなり

一むうてさういふ虫いかりげなる一
くい角なり石目とささうといふも
あさうのひさういふさうと日と

くるなり

一 女房のりある女えかりよかきくを
度の子をきけりと思つた原軍
おれをいふ單子めは男をうめえうと
いふあり部なるあや

一本朝をいふ吾邦のありなりと
思ふも誤なりあ載集の序みる

うよの風俗をきくは吾朝の
るよとせりかきくるなりたはま
と何やまらさるる一振ちを

一 四姓をいふは空よ何るよなを原
平藤橋とて姓をいひける佛はを
位するあまりよ何るよと空のよと
よと思ひてそれ擬していふ

ちりてゐて、かゝ田舎の人々は、
あり外に姓ありと思つて、奴の姓
の人も皆は、この内子あり、あゝ
れえと、あゝと、よけ、このあり、あゝ
あゝ、やうななり、より、安倍、伏朝
原、九子、巨勢、高階、春日、滋野、滋、繁、繁、
茂、田、首、城、音、井、津、船、多、麻、賀、茂、家

原、清、輔、佐、伯、都、布、瑠、言、丘、三、原、三、言
大、原、栗、田、田、部、島、田、田、中、言、橋、菱、野
錦、部、平、階、志、紀、清、室、布、勢、秦、槻、本
新、玉、早、部、朝、野、蕃、良、六、人、部、都、勢、賀、
陽、土、百、木、部、安、濃、死、多、戸、川、上、石、川、鶴
善、吉、野、猪、甘、茨、田、手、島、坂、合、丹、羽、稻、置
飯、高、六、坂、土、百、庵、波、多、里、川、長、谷、部、川、邊

蘆原あしはら 雀部すずめべ 沼田ぬまた 櫻井おうらい 服部はつべ 岸田かした 平郡ひらぐん 佐
和良坂わらざか 中なかつ 日下部ひしかぶ 阿岐古あきこ 春日部かすかべ 三枝みえだ
稻木いなぎ 土形つちがた 大石おおいし なまの類いりぐらゐ は姓いぢめ ありていふ
るハ大形おほがた 志し しては姓いぢめ の内うち となりたる
にほるいぢめ 一

一 跨か と何なに ともあるある 一ハ足跡あしあと のまゝまゝ 一
りあるある 一りあるある 一

一 返閉へんぺい とりハ陰陽師いんやうし 々の幸さい の時とき 一
するする 一りなり軍法者ぐんぽうしや の家いへ 一 遍へん 喫く 一
りあるある の何なに 一 一りあるある 一 一りあるある 一



南留別志卷之四 終

